

## 第二期 - ③

### 守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト報告書

開催日：平成28年6月25日（土）

時間：13時30分～15時

場所：レクチャールーム，噴水池横繁殖水槽，非公開稚魚水槽，平安神宮

参加人数：19名

運営スタッフ：高木，松永，精華大学板倉ゼミ学生

内容：・イチモンジタナゴの生体観察  
・平安神宮見学

今回の活動では，ついに繁殖に成功したイチモンジタナゴの観察と，動物園と同じ水系でイチモンジタナゴが生息している平安神宮を訪ねました。

まずはレクチャールームでここ最近のイチモンジタナゴ繁殖水槽の様子を説明し，その後実際に観察に行きました。こんなに近くまで水面に顔を近づけて見ているのは稚魚を探しているからなのです。

あまりに小さな稚魚に，見つけた時はみなさんから歓声が上がりました。みんなで立ち上げた水槽で稚魚を見つけることができ，本当に良かったです。



身を乗り出して真剣に探しています。

そして、別の場所にある稚魚水槽の見学に行きました。ここには約90匹の稚魚がいて、ここでもみなさんは水槽に顔を近づけて観察をしていました。



観察が終わると、次は園外にでました。

歩いて5分の場所にある平安神宮に行き、まずは権宮司の本多さんにご挨拶。



本多さんの案内で境内の池まで移動です。あいにく、ちょうど雨が降ってきたので雨のしのげるこの場所でお話を伺いました。



平安神宮ではイチモンジタナゴが生息していますが、ここ最近はとても減っているとのこと。減っている理由の一つには、イチモンジタナゴが産卵するマルドブガイが減っていること。歴史の長いこの池では、水底にドロが蓄積されマルドブガイが生活できなくなっているようです。しかし、とても大きい池ですから、水を抜いてヘドロを除去することが容易にはできないのが問題です。

ここには魚類は10種、樹木は200種、草本が300種、シダ類40種、キノコ150種、コケ100種と、多種多様な環境で成り立っているそうです。ひとつの生き物は多くの生き物によって成り立っているのですね。それが「生物多様性」です。そして、本多さんのお話で印象に残ったのは、「バランスのとれた生態系を保つには、ほったらかしてはダメ」ということです。何よりバランスが大切です。ひとつの生き物だけが増えるとバランスが崩れます。動物園の中でも、いろいろな生き物が自然な形で生きていける環境を作り、維持していきたいと感じました。



この活動は、公益財団法人自然保護助成基金第26期（2015年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成による支援を受けて行われています。